

## 植物と人々の博物館メールマガジン

第 106 号 2023 年 12 月 2 日発行



ユズがたくさん取れたので、近所に配りました。武蔵野公園のシュクシャやヒイラギモクセイも遅咲きでしたが、まだかすかに匂っています。秋子さんに大きな柿を頂いたので、皮をむいて干柿にしています。

植物と人々の博物館は今後も続きます。2024 年 4 月を目標に標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

### 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：今年度は冬季休館します。2024 年 3 月には原則月曜日、10:30～14:10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、休館中でも日程調整してご案内します。 担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

### ○報告

今秋は来訪者が多いです。

1) 腊葉標本のうち、学生野外実習で収集した関東山地のものは都留高校に移管しました。井上さんの仲介によります。標本の束の中から、植物病理学者白井光太郎直筆の文書を再発見しました（写真）。彼は東京腊葉会初代会長で、3 代目が学大の原沢さんでしたので、多くの標本を引き継ぎました。

2) 大阪学院大学の竹井さんが中央アジアで収集した標本を見に来てくださいました。丁度、畑で秋子さんにお会いできたので、いろいろ教えていただき、キクイモ、ヒョット、ラッカセイをお土産に頂きました。竹井さんも大喜びでした。途中で、山水館のご夫妻に会い、また、取り立ての大根を頂きました。とてもありがたいです。

ヴェトナムで在来品種の保全活動 Seed for Tables をしている伊能研究員が資料を見に来てくださいました。拠点を日本に移したら、ご一緒してくださるそうです。12 月 1 日に藤野から上野原経由、小菅まで巡検しました。参加者は 6 名でした。

3) 書架を再整理、配置しています。順次、蔵書の並べ替えをします。その後、展示の再生をします。11 月 27 日には梶間さん、川口さん、黒澤さんも作業に加わってくださいました。

4) 最近世界の食糧と食文化に大きな関心が広がっているようで、東京外国語大学や東京農工大学などで、研究会が公開開催されているので、参加しました。講演者の井堂さんからご連絡があり、アフロ・アジアの調査についてお話を伺いました。大澤さんもコメンテーターで参加していました。テフの食文化の講演は面白かったです。

### ○予定など

1) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。皆様も自由にお書きくださり、1 月末までにご寄稿ください。「雑穀街道普及会始末記」は書きたいと思います。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

## 2) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から第 3 章インド亜大陸の食文化まで改訂し、旅行記録の一部、第 9 章パキスタン、アフガニスタン、第 3 章の食文化・補論料理の起源を大幅増補、公開しました。現在は、第 12 章中央アジア諸国ほかヨーロッパへと書き進み、たくさんの探検記を参照しています。一方で第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うようにまとめに向かいます。同時に、50 年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。また、自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

OneDrive 東京学芸大学が勝手に機能するので、削除したら、個人 PC のハードディスクのデータもすべて消えました。バックアップしていた過去のデータは復元できましたが、最近の原稿はうまく復元できず、書き直すこととなります。便利の押しつけは恐ろしいです。このため第 3 章、第 9 章は再入力しました。第 12 章はかなり書いたのですが消えてしまい、新たに書き直しです。めげないで、気を取り直して頑張ります。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

も国会図書館インターネット資料収集保存事業 ([ndl.go.jp](http://ndl.go.jp))で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されます。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は大丈夫ですので、ありがたいです。

## 4) 森とむらの図書室への寄贈など

現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実します。ご協力いただけるとありがたいです。

<http://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。ゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただき、ありがとうございます。植物と人々の博物館への寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。2023 年度末で決算報告をします。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会

○予定 詳細はホームページをご覧ください。

12月下旬（23-25日 or 26-28日）、まふゆのキャンプ、15名 募集。

小菅村のいつものキャンプ場

## 3. 雑穀街道普及会： 閉会解散

この10年間の経緯の詳細については、「雑穀街道普及会の顛末書～大きな感謝と少ない謝罪（仮題）」を民族植物学ノオト17号に書いて、詳細をご報告し、記録を残します。雑穀街道普及会は解散しましたが、下記ホームページにアーカイブを公開しておきます。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

(33) [雑穀街道をFAO世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ連続講座第21回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

[The historical sketch of millets in Japan](#)

次の動画製作者は梶間陽一さん（映像作家2023）です。彼はこれまでの活動記録を映像として残してくださっています。いずれドキュメンタリー映画になさるようです。表紙にされているチラシは合同会社古民家のつけによる作成であり、雑穀街道普及会は関与していませんし、本会は桂川・相模川流域協議会の賛同を得てはいません。なぜ、雑穀街道普及会を閉会解散することになったかの顛末の一部事実はこれらの事から感じ取っていただけるかと思えます。詳細は民族植物学ノオト第17号に記録します。

<https://www.youtube.com/watch?v=TF8hdpFPeOg>

## 4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

## ○ 報告

自給農耕ゼミ（小金井）第9回（終） 7+3名参加

日時：11月19日（日）14：00～16：00

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

プログラム：

話題：①果てしない穀実物語 2 世界の穀物料理の起源から心の構造と機能を学ぶ  
～希望は人新世を生き物の文明へと移行することにある～

②雑談、雑穀発泡酒の試飲

話者：木俣美樹男

協催：カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館

映像記録 URL：[https://www.youtube.com/watch?v=kb8vER\\_HRe8&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=kb8vER_HRe8&feature=youtu.be)

資料：<http://www.milletimplic.net/university/farming/grain3fnal.pdf>

関連資料：『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』第3章および補論3  
<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/indmilbook/chap3foodok.pdf>

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/indmilbook/chap3foodsuplok.pdf>

## 2) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 詳細は別添付、東京学芸大学公認事業

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を、国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念として復刻醸造しました。第1回目は9月20日に発送しました。とても評判は良いです。第2回は自給農耕ゼミで栽培した新穀キビを使用、醸造中です。12月下旬の発送になるようです。今しばらくお待ちください。1回目を飲んだ方々の評価はよいですが、お申込みは終了して、3回目は実施しません。決算報告は清算後に関係者の皆様にお送りします。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）

連絡先：[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp) 木俣美樹男（事務担当幹事）

## ◎随筆；雑穀物6 岡部良雄夫妻

山梨県丹波山村の岡部夫妻を時折訪ねるようになったのは、21世紀の始まりの頃からです。その頃のフィールドノオトの記録をみると、次のように記しています。

2002年9月9日にも岡部さんの畑に行った。この年の栽培雑穀は、キビ、アワ、シコクビエ、モロコシ、ヒエであった。キビは白い穎の品種、すでに収穫済みで、本年は鳥害が少なかったため、防雀網は架けなかった。アワは在来品種と農業改良普及員から得たモチアワの2品種が登熟中であった。シコクビエは井上さんから依頼されてから播種した。出穂前だが生育は良好であった。これらは自宅向かいの近い畑に栽培していた。モロコシは自宅から少し離れた山の畑2aほどに、陽当たりが良いので作付けた。登熟中で、3mほどの草丈だった。中に2穂、下垂穂のタイプが混ざっていた。ヒ

エは小川の向こうの別の畑にあった。登熟中の無芒品種で、西原の品種と同じかと思われた。別の品種のアワも植えてあった。キュウリとトウモロコシを土産にいただいた。トウモロコシのおねりにはサトイモ、サツマイモ、カボチャをくわえた。

2004年3月21日には前日の雪が残っていたが、押垣外の岡部宅を訪ねた。畑から戻ってきた岡部さんに雑穀栽培講習会の講師を引き受けていただいた。夫人手作りのソバガキ、キビモチを頂いて、食した。ヒエの精白粒とトウモロコシの粗挽き粉を頂いて持ち帰った。粗挽きトウモロコシはイネ米に混合して、炊き、黄金メシといって民宿で食事に出している。丹波山村では他に雑穀栽培をしている人はもういないそうだ。村長はじめ村役場では雑穀栽培に関心を示す人はいない。岡部夫妻は自給自足的な暮らしを楽しんでいる。東京学芸大学や筑波大学の学生らも聞き取り調査に来訪している。埼玉から農業をしたい女性が来て、岡部さんの畑を借りている。

少子高齢化の重要課題は、伝統的知識・技能が伝承困難になっていることだ。岡部夫妻が言うとおりに、80歳も半ば過ぎの「戦中派」、せめて青少年の時に農耕経験がある人々でないと、直接体験による伝統的知識体系は持ち合せてはいない。これは喫緊の課題として、次世代が体験的に教を乞い、学ばないと、継承できずに、復元できない程に失われてしまう時期にある。IT技術や生命工学の時代に、科学的知識体系のほかに伝統的知識体系のような遅れたものは不要だと黙殺する人々が大半だ。しかし、持続可能な社会を再創造するように移行（トランジション）するための高い復元力を支えるのは、自然や生業に関する伝統的知識・技能の体系である。

岡部夫妻は講師料を受け取らないばかりか、植物と人々の博物館活動のためにいつも高額な寄付をくださいました。雑穀街道普及会の説明会にも、黒澤さんに同行して、丹波山から上野原市役所においでになり、参加くださいました。今日ではこれほど誇り高く、在来作物を保存している篤農はめったにお目にかかれません。

\* 雑穀物語 1~4 は「つぶつぶ」誌に、立花夫妻、降矢夫妻、椎葉夫妻および貝澤夫妻の物語としての連載しました。引き続き、メルマガで連載をします。

~~~~~

## 植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

写真



植物病理学者・白井光太郎の自筆挽歌と久米政民の標本



長寿村 欄原の碑



道の駅小菅の雑穀販売棚



いつものキャンプ場



びりゅう館書架への貸し出し



中川さん兄弟



藤野の茶畑





秋子さんから頂いた柿

### おわりに {ひとりごと／編集子私言}

雑穀街道普及が首尾よくいかなかったことの要因を明らかにするために、縁結びについて想いを深めてみている。人と人が信頼によって結びつかなければ、社会的な仕事はうまくできない。よいチームで働くことはとても気持ちがよく、成果も確実に上がる。

商売、ビジネスでも信用が第一だったはずで、自分の目先の儲けだけに走り、お互いの儲けを、時間をかけて分かち合わない。こんなその時かぎりの商い方法では成功できない。次があることを前提に協働して、儲けを広げるべきだ。本当に情けないほど商売が下手になったものだ。信用できない人とは一時の我慢でしか付き合えない。世間から離れたので、もう我慢はしないことにします。

ごく率直に極論を言えば、金の切れ目が縁の切れ目、金がなければ縁も育たないと言うことだろう。大口をたたき、人を謀っても、見る人がいれば、すぐに見切られてしまう。無知とはいえ、恥知らずには付ける薬がない。大言壮語する人は口ばかりで外国権威者からの借り物の理念を語り、自ら考えもせずに、その手も体も動かさず、心ある寄付もせず、自己利益の思惑で動くばかりだ。

世間の不義に対して誠実に抗う人々をいたぶることは、心の構造と機能がひどく歪んだ大小のサイコパスにとって、最高の快樂なのだろう。常人にはわからない、心の闇だろう。私益のためにそれに踊らされるムラ名士たちはその罪を知り、贖うことをしない。雑穀街道普及会や関係者個人への集団的いじめ（撥撫、共同絶交宣言）の残滓はいまだに続いており、信頼を裏切られ、やられた者は長らく PTSD（心的外傷後ストレス障害）で苦しむ。私は中島みゆきの「麦の唄」や「ファイト」を聞くたびに未だに涙が出る。しかし、泣きながらでも克服して、この体験した事実記録は書き残す。未来世代への希望のために、孤独の大切さと、孤立しないことの参考資料として記しておきたい。



ただ袖触れ合うだけで終わる無縁から、偶然の出会い、意図された出会い、悪意を隠した接近、などによる弱い縁あるいは悪縁から、師、親友、家族など終生の深い縁までもある。多くの師友や家族の深く強い縁に支えられていることに感謝している。